

【予稿集】

## ウィキペディアタウンが示すもの

岡野 裕行\*

\*皇學館大学文学部国文学科

\*h-okano@kogakkan-u.ac.jp

近年、ウィキペディアタウンの取り組みが全国に広まっている。これまでは、ウィキペディアタウンの取り組みに関わる人（ウィキペディアンや参加者など）や、それを開催するための空間やコミュニティ、あるいはウィキペディアのシステムなどの観点からその効果が検討されている。それをもとにウィキペディアタウンの意義を検討し直すと、①直接に顔を合わせて集うことによって体験を共有する機会になる、②ウィキペディアタウンそのものが記録化の対象となる、③自らが見聞きしてきたことを更新情報として未来のウィキペディアンに伝える、などの特徴を見ることができる。

## What can you do with a Wikipediatown?

Hiroyuki OKANO\*

\*Department of Japanese Literature, Faculty of Humanities, Kogakkan University

### 1. はじめに

2013年以降、ウィキペディアタウンが全国に広まっており、それらの開催事例の多くに各地域の公共図書館が何らかの形で関わっている[1]。また、大学の教育プログラム[2]や地域連携事業[3]のひとつに位置づけられたり、オープンストリートマップのマッピングパーティーと共同したりする事例も見られるなど、主催者や開催地の違いにより、さまざまな実施形態を見ることができる。

2017年3月の「ウィキペディアタウンサミット2017」[4]、同年11月の「Library of the Year 2017」[5]優秀賞受賞など、昨今は図書館業界におけるウィキペディアタウンの評価にも変化が見られ、以前にも増して注目度が高まってきている。

本発表では、図書館とウィキペディアタウンとの関係を考えるために、これまでの論点を整理した上で、そういった取り組みを続けることについての意義をまとめていく。

### 2. 従来の観点

#### 2.1 コミュニティとウィキペディアタウン

小林巖生は2015年に、ウィキペディアタウンの取り組みが、各地域やコミュニティへどのような影響を与えているのかをまとめている[6]。

- ①それぞれの地域に関する文化情報を、ウィキペディアを通じて、より広範な対象へと発信することができる。
- ②それぞれの地域に関する文化情報を、ウィキペディアにアーカイブしていくことができる。
- ③文化情報に関わる諸機関にとって、それぞれの施設が立地するコミュニティの関係者と協働することができる。
- ④文化情報に関わる諸機関が、自館の所蔵する情報資源を活用する機会をつくりだせる。
- ⑤ウィキペディアに蓄積されていくコンテンツを、オープンデータとして広く活用してもらうことができる。

#### 2.2 図書館員にとってのウィキペディアタウン

是住久美子は2015年に、図書館員がウィキペディアタウンに関わる際の注意点について、以下

に示す5点にまとめている[7].

- ①まちあるきを行う際に、対象地域のどのルートを通っていくのかを検討しておく.
- ②対象とする地域には、どのような特徴的スポットがあるのかを探し出しておく.
- ③記述しようとする項目が、ウィキペディアの独立記事作成の目安（特筆性）に合致しているかを考慮しておく.
- ④編集候補となる項目数を、事前にある程度まで絞っておく.
- ⑤編集対象となった項目についての資料を、イベントの開催前に準備しておく.

### 2.3 図書館とウィキペディアタウン

福島幸宏は2017年に、ウィキペディアタウンに関わる図書館（を含むMLA機関）関係者に対して、以下の3点についての提言をしている[8].

- ①社会の発展に寄与するために、著作権法をどのように理解・運用すれば良いのかを考える.
- ②各種の動向に敏感になることで、常に情報収集を行う姿勢を身につける.
- ③資料から情報を引き出し、加工するという情報の構造化の段階までの流れを見据える.

### 2.4 参加者とウィキペディアタウン

藤井慶子は2017年に、ウィキペディアタウンの参加者にどのような影響があるのかについて、次のような指摘を行っている[9].

- ①対象物の記事を書くという与えられた課題のためにまちあるきを行い、懸命に資料に向きあって調べるうちに、参加者は「知りたい」という知的欲求が触発される.
- ②情報を消費する側だけでなく、自らの手で文章を新しく生み出し、世界に向けて発信することの体験ができる. その体験により、知的財産や著作権に思いが至るようになる.
- ③取り組みの成果をウィキペディアに反映させ

ることで、自らの言葉を世界に向けて発信し、公開するという達成感を味わえる.

前述した小林も、“体験を通じて地域のさまざまな事柄について学ぶことができる”と、藤井同様に「体験」というキーワードを示している[10].

### 2.5 ウィキペディアンとウィキペディアタウン

日下九八は2018年に、ウィキペディアタウンのメリットについて、主としてウィキペディアンの立場から、以下のようにまとめている[11].

#### A) ウィキペディアにとってのメリット

- ①執筆者の増加が見込める.
- ②記事の充実が見込める.

#### B) 図書館にとってのメリット

- ①図書館に足を運んでもらう機会になる.
- ②図書館の機能を知り、郷土資料を活用する機会となる.

#### C) 参加者としてのメリット

- ①地域情報を広く発信する機会となる.
- ②情報リテラシーやアカデミック・ライティングを学ぶ機会となる.
- ③著作権やライセンスの基礎を学ぶ機会となる.

## 3. 先行する論点の整理

前節でまとめたウィキペディアタウンについての先行する論考を追ってみると、そこに複数の論点を見出すことができる. いくつかの観点を補足しながら、それらを傾向別にまとめてみると、おおむね以下のような特徴を見て取ることができる.

### ■ウィキペディアタウンに関わる「人」

#### ①図書館員

- ・調査のための資料や会場を提供する.
- ・主催者として関わる場合もある.

#### ②ウィキペディアン

- ・ウィキペディアの執筆者を増やす.

- ・直接に交流する機会を得る.

### ③地元の参加者

- ・自分たちのまちの歴史や文化を知る.
- ・図書館と地域資料の機能を知る.
- ・中立的な観点や出典の明記など、ウィキペディアの編集方針を知る.

### ④よその地域からの参加者

- ・まれびとならではの視点を持ち込む.

### ⑤主催者にとっての開催意義

- ・組織や団体としての活動実績となる.
- ・オープンデータの取り組みに寄与する.

### ⑥調査に必要な情報源に関わった人たち

- ・過去の事実を記録に残してくれている.

### ⑦未来のウィキペディアン

- ・ウィキペディアが続いていくことで、同一の項目を未来の誰かが更新する.

## ■ウィキペディアタウンに関わる「空間」

### ⑧開催地の図書館

- ・地域資料を活用する.
- ・レファレンスサービスを充実させる.
- ・図書館自身が編集項目になる.

### ⑨開催地となるまち

- ・まちあるきと調査編集会場の舞台となる.

### ⑩執筆対象となった事物やモニュメント

## ■ウィキペディアタウンという「システム」

### ⑪対象項目の記事内容の充実化

### ⑫ウィキペディアタウンの実施記録の蓄積

- ・ウィキペディアタウンの項目そのものが記録化の対象になる.

①～⑤はウィキペディアタウンを実施する現在の視点、⑥はそれぞれのまちの歴史や文化を築いてきた過去の視点、⑦はまちの未来の視点である。一般にウィキペディアタウンは、まちあるきと絡めた共同編集のイベントと見られるため、現在の参加者の視点のみから語られてしまいがちである。しかし、それぞれのまちの歴史や文化に関するキーワードをもとにして、過去の出来事を受け継ぎながら未来へ情報を伝えていくという時間の流れへの視点も必要となってくる。

## 4. ウィキペディアタウンでできること

### 4.1 集うことによる体験の共有

ウィキペディアタウンに集い、共同作業を経験できた人は、これまでの膨大なウィキペディアの編集の歴史のなかでは、ごく僅かな人数でしかない。また、図書館利用者の観点から考えても、そのうちのごく一部の人が体験しているにすぎない。

あくまで限られた参加者同士に限定されることになるが、ウィキペディアタウンに見られる変化について、藤井が次のように指摘している[12]。

ウィキペディアン達が普段は顔をだすことのないイベントに登場することにより、リアルの世界で彼らの交流が始まっています。通常は一人活動のはずのウィキペディアン同士が、人と会うようになるのです。普段会うことのない行政の人や、まちづくりの人、図書館の人とこれまで行ったことのない場所で集う。

ウィキペディアタウンに集い、まちあるきや図書館での資料調査を通じて共同作業(見物、調査、閲覧、執筆、編集など)が促されることで、同じ日の同じ時間に一緒にあるき、まちなかの事物やモニュメントを眺めるという行為を、当日の参加者同士が同じ体験として共有できるようになる。

### 4.2 実施記録による体験の共有

ウィキペディアに掲載されている情報は、それを更新する人の利用者が記録・公開されているものの、本名を明かさず匿名性の高い状態のものも多く、一見するとどこの誰が情報を更新しているのかわからないことも多い。

しかし、ウィキペディアタウンを実施する場合、どの項目を編集するのかについての情報も公開することになる。そのため、「ウィキペディアタウンの参加者が更新した」ことも公にされた上で、編集の事実が記録として残されることになる。また、ウィキペディアタウンの当日にどういった場所を

あるき、どこで編集作業をおこなったのかについても、活動記録として残されることが多い。

このような編集履歴や活動記録は、ウィキペディアのなかに記録されるに留まらず、主催者の報告記事や参加者のブログなどにもまとめられることも珍しくない。もともとはウィキペディアの更新作業を目的として参加者が集まってはいるものの、ウィキペディアタウンという活動そのものもイベントとして記録化の対象になるという傾向があり、その成果が実施記録としてウィキペディアの外部にも残ることになる。

#### 4.3 未来のウィキペディアンへの情報共有

百科事典は、私たちの生きるこの世界のあらゆる物事を収録対象にしている。そこには、私たち自身のことも含めて考えることができる。ウィキペディアタウンに集う人たちは、文献調査や更新作業を通して、ウィキペディアというシステムの歴史の一部に組み込まれていくことになる。

ウィキペディアタウンは、ウィキペディア側から見てみれば、当該項目の内容を充実化させるためのグループによる共同編集作業であり、図書館側から見れば、地域資料を効果的に活用していくための絶好の機会と捉えることができる。

一方、ウィキペディアタウンを参加者側の立場から見てみると、自らが眺めてきたまちの風景や撮影記録、あるいは図書館で調査した内容をもとにして、時間をかけて文章を練り、百科事典という世界の一部に書き加えていく地道な作業である。ウィキペディアに自分の作成した文章を書き加えるということは、自らが見聞きしてきたことを百科事典の一部へと組み込んでいくことでもある。その記述内容は、未来のウィキペディアンへと渡されるボタンとしての役目を果たしている。

#### 注・文献

[1] ウィキペディア. プロジェクト:アウトリーチ/ウィキペディアタウン.  
<https://ja.wikipedia.org/w/index.php?title=PJ:WTOWN>, (参照 2018-6-01).

[2] 日向良和. 図書館における地域資料の活用事例: Wikipedia Town in Tsuru 実施とスマートフォンアプリの作成. 都留文科大学研究紀要. No.84, 2016-10-20, p.87-100.

[3] ウィキペディアタウン伊勢. 平成 28 年度皇學館おかげキャンパスプロジェクト報告書. 2017. [https://www.kogakkan-u.ac.jp/img/other/p09/pdf/okage\\_houkoku\\_28.pdf](https://www.kogakkan-u.ac.jp/img/other/p09/pdf/okage_houkoku_28.pdf), (参照 2018-6-01).

[4] 京都府立図書館. 「ウィキペディアタウンサミット 2017 京都」が京都府立図書館で開催されます!. <https://www.library.pref.kyoto.jp/?p=9110>, (参照 2018-6-01).

[5] IRI 知的資源イニシアティブ. Library of the Year 2017. <http://www.iri-net.org/loy/loy2017.html>, (参照 2018-6-01).

[6] 小林巖生. ウィキペディアタウン: ウィキペディアを通じてわがまちを知る. ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG). 2015-04-06. <http://archives.mag2.com/0000005669/20150406141650000.html>, (参照 2018-6-01).

[7] 是住久美子. ライブラリアンによる Wikipedia Town への支援. カレントアウェアネス. No.324, 2015-06-20. <http://current.ndl.go.jp/ca1847>, (参照 2018-6-01).

[8] 福島幸宏. ウィキペディアタウンを MLA の立場から考える. マガジン航. 2017-07-11. <https://magazine-k.jp/2017/07/11/wikipediatown-for-mla/>, (参照 2018-6-01).

[9] 藤井慶子. ウィキペディアタウンというプロジェクトについて. ACADEMIC RESOURCE GUIDE (ARG). No.628, 2017-02-13. <http://www.arg.ne.jp/node/8817>, (参照 2018-6-01).

[10] 前掲 6.

[11] 日下九八. 地域資料をアーカイブする手法としてのウィキペディアタウン, またはウィキペディアとウィキメディア・コモンズ. デジタルアーカイブ学会誌. Vol.2, No.2, 2018, p.120-123. [https://doi.org/10.24506/jsda.2.2\\_120](https://doi.org/10.24506/jsda.2.2_120), (参照 2018-6-01).

[12] 前掲 9.